

猿 橋
小学校

瑛玖良

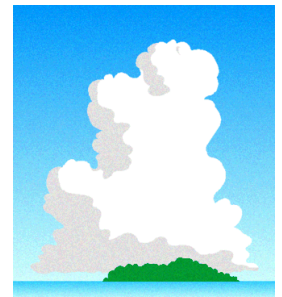
瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

夏は来ぬ^き

校長 磯部 裕之

空の低いところから高いところに向かって、入道雲がムクムクとした姿を見せ始め、どこからともなくせみの声が聞こえ始めると、「夏が来たなあ」と感じます。

梅雨が明け、本格的な夏に向かうこの季節になると、大人になった今でもなぜかワクワクした気持ちになります。子どもの頃の夏休みが、楽しかったからかもしれません。



私が子どもの頃の夏休みを思い起こしてみると、毎日ラジオ体操があり、宿題は、夏休み帳、科学研究、絵日記、図工の作品作りなどお決まりのものでした。夏休みの楽しみと言えば、地域の子ども会役員さんの企画による、笹川流れへの海水浴くらいで、あとは、夕方まで神社で遊んだり空き地で野球をしたりして過ごす日々でした。ただ、毎日が楽しかったのです。

教員になって数年目、夏休みに必ず課題として出される「科学研究」について、理科を専門とする先輩の先生に聞いたことがあります。

「どうして、毎年、夏休みの課題に科学研究が入っているのですか」

すると、このような回答が返ってきました。

「理科の勉強の基本が、この科学研究には詰まっているんだ。自分が気になっていることや調べてみたいことを見つけ、自分なりに調べる方法を考えて、何日かかけて観察や実験をして、自分なりに答えを出す。普段から自分が気になっていることについて調べてみるのに、まとまった時間があるこの夏休みがぴったりなのさ」

自分でやりたいことを見つけて、自分で挑戦するという経験が重要とのことでした。

子どもたちにとって、この夏休みという期間は、やはり特別な時間だと思います。スポ少などのスポーツに打ち込むもよし。読書や工作など、好きなことに没頭するのもよし。

家庭や地域に戻ってゆったり過ごすこの約1ヵ月は、子どもたちの充電期間であると同時に、自分のやりたい「何か」に挑戦し、また一步、成長する期間にもなります。

今は、ゲームやスマホなどの電子機器、SNSといった各種メディアや情報が子どもたちの身の回りに溢れています。一步間違えると犯罪につながるケースも出てきます。子どもたちが、安全に楽しく充実した夏休みを過ごせるように、各ご家庭、そして地域で、子どもたち一人一人を見守ってくださいますようお願いいたします。